

令和6年度 修了式 講話

令和6年度は、例年以上に真夏の日々が長期間続き、短い秋の期間の後に一転して周期的に厳しい寒波に見舞われ、気温の年較差が大きい一年となったのではないかと感じています。しかし、3月に入り次第に年度の終わりに相応しい時節となり、こうした中で本年度の修了式を迎えることとなりました。

1・2年生の皆さんは、それぞれ教育課程に基づく1年間の学びをしっかりと修め、次の学年に進むこととなります。ここに、皆さんの日々の努力を大いに評価しています。一方で、皆さんを支え導いてくださった家族や地域の方々、さらには級友や先生方に対する感謝の気持ちを忘れず、今後、自らの新たな課題を見出した上で目標を据え、更なる成長を遂げていくことを期待します。

ここで、皆さんが回答してくださった本年度の「学校評価アンケート」及び「高校生の意識及び生活に関する調査」の結果から、この1年間の取組についての総括と今後の課題等について掘り下げてみます。

まず、「学校評価アンケート」については、全体的にみると、生徒の皆さんのほか、保護者の方々、学校運営協議会の委員の方々、教職員も含め、ほとんどの項目において、「当てはまる」及び「おおむね当てはまる」と回答した人の割合が8割を超えていました。また、「高校生の意識及び生活に関する調査」の中の、「あなたは授業や特別活動等の学校生活全般に満足しているか。」という項目においても、「当てはまる」及び「おおむね当てはまる」と回答した人の割合が9割近くを占めました。なお、皆さんの学校生活全般に対する充実度を更に高めていきたいという思いから、学校運営協議会の会長様に御来校いただき、教頭先生と私も同席して生徒会の代表生徒数名からよりよい学校づくりに向けた提言等に耳を傾け、意見交換を行いました。蛇足ではありますが、生徒会から出された意見を踏まえ、施設・設備の更なる充実にも目を配り、予算が確保でき次第、整備に着手しているところです。

次に、「学校評価アンケート」の中の「学校の授業の中で学力の伸びを実感できる」という項目について、全校生徒の半数以上

が「当てはまる」と回答しています。しかし、ほぼ同じ時期に実施された「高校生の意識及び生活に関する調査」の中の「あなたは学校の授業がどの程度分かるか」の項目において、「おおむね当てはまる」と回答した人が8割近くを占めるものの、「当てはまる」と回答した人は1割に留まっています。さらに、「高校生の意識及び生活に関する調査」の中の「あなたは目標に向かって努力しているか」の項目においても、前述の項目とほとんど同様の回答状況が窺えます。したがって、自身を高めていくためには、授業に対する理解を深め、「できる」、「身に付いた」と実感する機会を増やし、自己分析を踏まえ更なる努力を講じていくことが欠かせません。第3学期始業式においても、他者と「つながる」中で新たな気づきを得てリフレクションを重ねて「確かさ」が増していくものであり、その最も身近で効率的かつ効果的な取組とは、日々の授業に全力で臨み、家庭での予習及び復習も含めてこのことを習慣化し、継続していくことに他ならないことを伝えました。再度自身のことを振り返ってみてください。

さらに、「高校生の意識及び生活に関する調査結果」において、「あなたは探究活動（白魚学）等の授業を通じて、他者と協働しながら課題を見つけ、解決する力が高まっていると感じているか」という項目について、皆さんのうちのほとんどが「当てはまる」又は「おおむね当てはまる」と回答し、その両者の割合に大きな差は見られませんでした。しかし、「あなたは授業や特別活動の学校全般を通じて、ふるさとの発展に貢献したいという意識が高まっていると感じているか」という項目や、「あなたは地域課題の解決や政治、選挙に関心があり、主体的に社会参画を目指しているか」という項目に対し、「あなたは白魚学等の授業を通じて、他者と協働しながら課題を見つけ、解決する力が高まっていると感じているか」という項目と同様に、全校生徒の約半数が「おおむね当てはまる」と回答しているものの、「当てはまる」とした人の割合は大きな差が生じています。そこで、今後は、地域への関心の高まりをパブリックワークにおける取組で完結とはせず、学校や地域の発展はもとより、自身の向上に向けて更に主体的な社会参画につなげていくことが求められるのではないかと考えて

います。こうした視点から今年度の活動を振り返ると、2年生のパブリックワーク防災班において、昨年12月に長崎県議会議員との交流会に参加して知見を広げたことや、本年3月に「防災チェックリスト」を作成して新上五島町の全世帯へ行き渡るよう町役場にアプローチしたことは、今後の活動のモデルとなるのではないかと考えています。

一方で、目標を据え、更なる成長を遂げていくための布石として、3月初旬の「キャリアアップデー」において、新上五島町商工会から講師の先生をお招きし、働く意義や職業選択において大切なこと、そのために今何をすべきかということ学び、将来の進路選択の際しての大きな指針を示していただきました。

学校におけるこうした機会はもとより、日頃の保護者や地域の方々等との関わりや対話等を通して、自己理解及び社会の実情についての認識を深め、自ら生涯にわたる計画を立て、主体的に仕事や社会生活を通じて経験やスキルを蓄積し、自己実現を追求していくことが欠かせないと考えています。

先日、日本で開催されたアメリカメジャーリーグの開幕戦において圧倒的な存在感を示したロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平選手は、高校3年生の時に自身が70歳に至るまでの「人生目標シート」を作成したことで知られています。その内容を確認すると、自身の弛まぬ努力によりほとんどの項目において実現に至っていることが分かります。大谷選手の野球選手としての優れた資質・能力もさることながら、高校生の段階において綿密なキャリアデザインを行っており、それが現在につながっているということは、高校生である皆さんに是非認識して欲しいと考えています。明日から次の学年に進むまでの隙間期間を迎えますが、少なくとも令和7年度における目標や計画を書き出して「可視化」した上で、新学期を迎えることを期待します。

最後になりますが、「一月往ぬる二月逃げる三月去る」という慣用句があり、これにちなんで四月は「知る」月、五月は「動く」月と示されることがあります。休業中は、気持ちを引き締めて体調管理と事故等に留意し、充実した日々を過ごして、新年度に自己の目標に向けての動きを加速できるよう準備を整えてください。